

外科と内科治療同時に

釧路孝仁会病院 患者の負担軽減も

釧路孝仁会記念病院(釧路市愛国1-9-1)は8日、釧路・根室管内で初となる外科と内科の治療を同時に行えるハイブリッド手術室を報道関係者に公開した。これまで別々だった透視装置と手術台を併設することで、手術時間の短縮や患者の負担軽減につながる。

手術室は同院の2階に開設。手術台には血管造影装置が併設されており、スクリーンに血管内の3次元画像を映し出しながら処置する。カテーテルを使った血管内治療中に、その場で開腹手術に移ることもできる。

生活習慣病の三大疾患である脳卒中や心臓病の急増で、心臓血管外科や脳神経外科の症例が増えている

釧路管内で初となる釧路孝仁会記念病院のハイブリッド手術室(茂忠信撮影)

が、木村文昭心臓血管外科部長は「ハイブリッド手術室の導入で、手術時間は従来の5〜8時間から2〜3時間に短縮した」と話す。9月1日に運用を開始。今月8日までに23件の治療を実施し、内訳は心臓血管外科15件、脳神経外科5件、

循環器内科3件。高齢化を背景に大動脈瘤の症例が増えているという。

稲垣徹院長は「身体への負担が少ない手術や治療法

を提供できるようになった。地域の医療機関と連携して道東の医療を支えていきたい」としている。

総合病院(春湖台1)が2028年度に開院をめざす新棟にハイブリッド手術室を設ける方針を示している。(今井潤)



令和2年10月9日(金)

北海道新聞 17面